

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
年間	1,500円(税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

とびら出版のチャレンジ 「神奈川の風を全国に」 クリエイティブ力で勝負

文・野辺 真実

2008年3月、とびら出版という新しい出版社を立ち上げました。出版で利益を出すのは宝くじを当てるより難しいよ、と親身に忠告してくださる方もいました。しかし、私には出版を始める情熱を抑えることはできませんでした。

武蔵野美術大学で学んだこと

出版業を起業をすることは大学生の時分に決心したことでした。私が通っていた武蔵野美術大学という学校は教授と学生の距離が近く、魅力的な先生方が大勢おられました。向井周太郎先生、杉浦康平先生、長澤忠徳先生…それぞれ皆、著作者であり、装丁家であり、印刷の専門家であって、文化人でもあります。「デザイン」とはそれらすべてをひっくるめた全方位へのプロフェッショナル活動であり、「デザイナー」とは文化を捉える人間のことであり、ということをお教えるのが武蔵野美術大学の基礎デザイン学科でした。

これら先生方は、まるで20代の青年のような目をして、デザインのこと、文化をどう捉えるかということをお嬉々として語られました。その一言一言が無形の宝物であり、自分の人生に100%の力で立ち向かう姿勢は何より美しく見えました。いずれ自分もそうありたい、と心に誓ったのです。

大学卒業後、印刷会社に就職し、印刷機に囲まれて修行していたある日のこと、社内にて出版事業を始めてみるというチャンスに恵まれました。当時は日販とのつきあいで、年に50点ほ

ど作っていました。返品之苦しみ、売れる本の傾向、バイヤーとの接触など、実経験をつめたことは私にとって大きなプラスとともに、反面教師にもなりました。出版業において売上が何億円であろうと、返品率が高ければ何の意味もないのだ、という思いを強く持つようになったのです。それより大切なことは、真に価値ある書籍を作ることだと実感していました。

出版とは情報産業

「クリエイティブが価値をうむ」

とびら出版を設立した2008年の正月に書いた書初めです。

本は物体として見れば、ただの紙の束にすぎません。文房具屋に行けば、自由帳は1冊100円以下で販売されていますが、これが書籍となると1冊1000円からの価格帯になります。同じ紙の束で10倍以上の価格差が生じるその違いは、印刷されている情報の値段ということになるでしょう。

つまり出版とは情報産業であって、いかに有用な情報を採集し、デザインし、印刷するかという戦いであると私は考えました。大手出版社の本でも、とびら出版の本と、使っている紙やインクは一緒です。違うのは印刷されている内容なのであれば、そのクリエイティブ力で勝負していこう、ということがとびら出版の最初の方針となりま

した。

実際、起業する前に書店を巡り、書店員の方に企画した本のゲラを見せて回ったところ、「これなら売れるんじゃないか」という感想をいただいていたことも背中を押しました。書店員の方と話をしてみると、なんとか売れる本を見つけ出そうとする熱意をもった方と出会うこともあります。そのことは、今の時世こそ、内容のある本を作れる出版社が生き残れる可能性を示していると思います。未曾有の出版不況といわれる現状は、言い換えれば未曾有の構造変革の顕在化ですから、今を生きる私たちにとってはチャンスでしかないのです。

神奈川の沿線文化を捉える

自然と都会が絶妙にミックスされた
田園都市文化

多くの出版社が神奈川に拠点を置く中で、とびら出版は神奈川に事務所を置くことにしました。私自身、神奈川に住み、育ってきた経験から、神奈川の沿線文化とでも呼ぶべき文化帯の存在を実感していたからです。都心から郊外に延びるいくつかの路線には、その路線ごとのカラーが如実にあり、中央線沿線に住むということと、東横線沿線に住むということは明確に空気の違いが感じられます。距離的にはさほど離れていないにも関わらず、イメージや生態系に違いが生じているのです。私はその中で神奈川方面に延びる路線の沿線文化というものをお本に形に捉えてみたいと思いました。そこには、現代の女性たちが求める、ある種の理想的な文化、居心地のよい風が吹いているからです。

ために田園都市線の二子玉川駅で



降りて、多摩川近辺を散策してみましょ。駅前の高嶋屋に集う主婦たち。ロビーで頻りに開催されている展示会やショッピングを楽しみ、広い空間にソファが置かれ、何時間でもくつろぐことができます。

家は一戸建てが多く、大きさは都内より一回り大きい。庭があり、街全体の緑化率が高く、通りをはさんで2軒の家が競い合うようにガーデニングに精をだしていたり、家の外壁にイルミネーションを施していたりします。ちょっと小路に入れば、こんもりと繁った小さな森や、多摩川の広い河川敷もある。自然と都会が絶妙にミックスされた、まさ



に田園都市文化がそこにはあります。

とびら出版の第1冊目の本は「育てると得をする30のミニ野菜」といって、今、田園都市沿線で流行している家庭菜園を、広くどの家庭でも再現できるようにアレンジして紹介した本です。この本を読めば、庭のない

マンション暮らしの女性でも、部屋の中で机の上にパセリや水菜を育てることが出来ます。部分的に、自分の机の上に自然の緑を切り取って持つてこれる、という寸法です。

さらに今月、第2冊目の本として、「ちぎり絵で海外に友だちをつくる」と

いう書籍を発刊することとなりました。田園都市沿線で、活発に活動している主婦層とは30代後半の年代が多く、彼女たちは今、育児と仕事の狭間で揺れています。この人たちは一般的に男女とわずキャリアが高く、海外旅行の経験も豊富である一方、家庭では結婚、出産に伴う生活環境や人間関係の激変を経験しています。彼女たちの海外志向、友人づくりへの熱心さ、幼い子どもがいてもできる作品づくり…それらのニーズを沿線の主婦たちと一緒に考えていった先に見えてきたひとつの答えが、この本には詰まっているのです。

「神奈川の風を全国に」

とびら出版のこれからの挑戦です。
(のべ まさみ/とびら出版代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『予は下野の百姓なり 一田中正造と足尾鉍毒事件 新聞でみる公害の原点』 ●下野新聞社編著



明治時代、下野(しもつけ、現在の栃木県)の足尾に大規模な銅鉍山が拓かれ、急激に生産を拡大、それに伴う煙害で山野はハゲ山となり、流れ出た鉍毒と洪水によって渡良瀬川(利根川の支流)流域の田畑は壊滅状態となった。県当局は、渡良瀬川下流域の谷中村を強制的に廃村とし、ここに広大な調整池を造ろうとした。この時鉍害反対、谷中村存続に立ち上がったのが、わが国公害闘争

の最初の人、田中正造だった。

本書は、公害の原点といわれる足尾鉍毒事件を新聞はどのように伝えてきたのかを、田中正造の動きを中心に逐一たんねんに追い、新聞の果たすべき役割の大きさを明らかにした点で貴重である。全ページ写真を主にした構成、巻末資料も充実。

◆1890円・A4判・238頁・下野新聞社・栃木・2008/6刊・ISBN978-4-88286-363-2

『佐藤慶太郎伝 一東京府美術館を建てた石炭の神様』 ●斉藤泰嘉著



上野の東京都美術館の前身、大正15年に開館した東京府美術館の建設費用はすべて、九州若松の石炭商佐藤慶太郎の寄付金によってまかなわれた。地元では「石炭の神様」と言われたが、その生活は質素で、現在の金額に換算して30億円もの寄付をするほどとはとても思えないような、儉約に努めた暮らしぶりであったという。そうやって貯めた、不動産以外のほぼ全資産を佐藤は寄付

した。当時の日本の美術界が、西欧諸国にあって自国に常設美術館がないのを嘆いていたのを見かねてのことだった。本書で彼の足跡を辿ると、その座右の銘であったという「公私一如」を、彼が文字通りに生きたのだとわかる。

◆2625円・四六判・334頁・石風社・福岡・2008/5刊・ISBN978-4-88344-163-1

『猫の手くらぶ物語 一八ヶ岳南麓』 ●色川大吉著



病気の進行をくい止め、体力を取り戻して仕事に集中するために、十年前の夏、東京から山梨県八ヶ岳南麓の村に移住した歴史家の著者。家事労働の多さや冬の厳しさに閉口するが、ある時、同じくひとり暮らしの仲間より、お互いの余力を借り貸しする助け合いのクラブについて相談を受ける。こうして発足した「猫の手くらぶ」。「猫の手」でも借りたいというのが名前の由来である。本書

は多彩なメンバーを持つクラブの8年間の歩みや森暮らしの体験談及び随想を集めたもの。歴史家ならではの視点で山梨も舞台となった民衆蜂起事件にも言及する。互いの生活を尊重しながら助け合い、楽しみ合える、大人のクラブの成功例がここにある。

◆1890円・四六判・170頁・山梨日日新聞社・山梨・2008/6刊・ISBN978-4-89710-616-8

売行良好書

期間：2008年7月16日～8月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1) 『ゆりちかへ』 1365円・書肆侃侃房 (2) 『幕末の外交官 森山栄之助』 1890円・弦書房 (3) 『林 達夫・回想のイタリア旅行』 1890円・イタリア書房 (4) 『死者のゆくえ』 2940円・岩田書院 (5) 『中国低層訪談録』 4830円・中国書店 (6) 『トモニコウ。』 1500円・アートヴィレッジ (7) 『材料使いきり、便利なおかず』 1260円・ベターホーム出版局 (8) 『子どもを生きれば おとなになれる』 2100円・アスク・ヒューマン・ケア (9) 『中国情報ハンドブック 2008年版』 3150円・蒼蒼社 (10) 『ねぶただ』 1365円・ポトス出版 (11) 『輝くサードエイジへ』 1260円・石風社 (12) 『作っておくと、便利なおかず』 1260円・ベターホーム出版局



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 8月号』 420円・東京かわら版 (2) 『よみがえる熊本城』 1260円・碧水社 (3) 『モツ煮狂い 第2集』 504円・平成烏有堂 (4) 『HB 4』 500円・HB編集部 (5) 『旅のかばん Vol. 1』 300円・旅のかばん編集部 (6) 『フォトグラフ「熊本城」』 1470円・熊本日日新聞社情報文化センター (7) 『よみがえる滝山城』 735円・揺籃社 (8) 『日本の名城』 1680円・碧水社 (9) 『鉄腕稲尾の遺言』 1680円・弦書房 (10) 『野宿野郎 5号』 500円・野宿野郎

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『ゆりちかへ』 1365円・書肆侃侃房 (2) 『浅田家』 2730円・赤々舎 (3) 『e 自然体数の底 1000000桁表』 285円・暗黒通信団 (4) 『ボナペティ 4号』 550円・ボナペティ (5) 『酒とつまみ 第10号』 400円・大竹編集企画事務所 (6) 『アーリーモダンの夢』 2520円・弦書房 (7) 『やさしいオリジナル香水のつくりかた』 2310円・フレグランスジャーナル社 (8) 『本の手帳 第5号』 1050円・本の手帳社 (9) 『鉄腕稲尾の遺言』 1680円・弦書房 (10) 『林 達夫・回想のイタリア旅行』 1890円・イタリア書房

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★


▼新規取扱誌『リムジンガン』

今月号の新刊ダイジェストでも創刊号が紹介されている『リムジンガン』の第2号(2980円/アジアプレス・インターナショナル出版部)が、8月中旬に刊行されました。特集は「08上半期北朝鮮最新内部事情・食糧危機の実態を探る」「北朝鮮経済官僚秘密インタビュー②」等々。この『リムジンガン』は、北朝鮮に「政府の公報」ではない自由なジャーナリズムを芽吹かせるためにと意図され、その原稿は自ら取材活動することを決意した北朝鮮内部の人々によるものですが、記事の信頼性を確保し、読者に納得してもらうために「リムジンガンはこうして作られる」という欄を設け、記事の読み方を解説しています。読者がまず最初に思うことは、記者たちは危険ではないのか？ということですが、そういった疑問についてもこの欄で答えています。写真はほとんどビデオ映像から起こした静止画で、その画像の粗さが記事の信憑性を感じさせるように思えます。発行しているアジアプレス・インターナショナルは日本とアジアの独立ジャーナリストのネットワークで、20年前に創立され、メンバーはおよそ30人。大手メディアが伝えないアジアの現場を報道していくと出版部を立ち上げ、『リムジンガン』朝鮮語版をすでに2号刊行し、英語版も近日刊行とのこと。今後北朝鮮映像資料集等も発行していく予定です。

郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
 - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
 - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター
 F A X : 0 3 - 3 2 3 5 - 6 1 8 2

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

